

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0475500476		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームいずみの杜	ユニット名	くるみ
所在地	宮城県仙台市泉区松森字下町7-2		
自己評価作成日	平成 22年 11月 19日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年12月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・ご家族と一緒に過ごす時間を大切にしていきたい思いから、行事などの案内はできるだけこまめに行い、参加を声掛けしている。また、全体で行う行事だけでなく、個別での外出にも利用者さんの希望をふまえて、ご家族も一緒に参加できるよう配慮している。ケアカンファレンスへの参加へのよびかけしている。  
 ・法人内で、アロマの講習、フェイシャルの講習を2名の職員が受講し、全体でケアに活かすことができるよう取り組んでいる。  
 ・地域の行事や推進会議などを通じて、町内会や近隣の方々との交流の場を持ち、親睦をはかることができるよう努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

隣接する同法人の「いずみの杜診療所」と老人保健施設、デイサービスの他に仙台市を中心に、県内に多数の介護支援事業所等を開設している。グループホームの入居者にとって、馴染みの人、馴染みの物が安心感をもたらすことから、職員の異動は最小限であるよう願っている。入居者一人ひとりの想いに耳を傾け、可能な限り本人の希望に沿うようなケアを実践していることは家族アンケートからも窺える。家族との関係性を持続する工夫も随所に見られ、今年度から家族にもカンファレンスの参加も呼び掛けている。意見を引き出しサービスの向上に活かしている事で信頼と安心感にも繋がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームいずみの杜 )「ユニット名 くるみ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をベースにユニット目標を毎年度立てている。また、目標に関しての振り返りを職員全員で行う時間を作っている。	「関わりを大切にした自立と共生の支援」を基に、ユニット毎の介護理念を職員で共有している。入居者に胃瘻の方がいるが、皆と一緒に食卓を囲んでいる。本人が今できる事の関わりを大切に支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、特に夏祭りや運動会は地域の一員として職員、利用者さんが積極的に参加している。	地域の一員として夏祭りに実行委員を引き受けホームでも出店し盆踊りを一緒に楽しんだり、運動会は見物だけでなく入居者も選手として生き生きと参加している。ホームの避難訓練に参加する等、関わりが深くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、「認知症」について勉強する時間を設けている。また、キャラバンメイトの講座を受けたことで、今後必要に応じて活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ことに直近2ヶ月の間のホームの取り組み、行事などの様子を伝え、取り組みに対するアドバイスをいただいている。	法人が地域包括支援センターを受託しており、毎回出席している。介護教室や地域のサロン等の情報提供がある。年6回利用者、家族、地域等の参加もあり意見をサービスの向上に活かし双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの運営推進会議に参加して頂き、取り組みについて伝え、協力を得ている。	スプリンクラー取り付けに係る制度や自立支援医療手続き等の相談をしている。地域密着型といっても広域過ぎるので、近隣の馴染になった人の入居が叶わない場合、地域密着型の意義に疑問を感じる時があるという。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で勉強会を通じて、行なっている。	日中は施錠せず防犯の工夫もしている。家族からベッド柵取り付けの要請があったが、マットレスを敷く工夫で対応している。「GPSにより位置を確認できる装置」を持ち自由に外出している人もいる。身体拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を通じて、行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を通じて、行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度改正時は説明を十分にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し意見を出し合う場をとっている。	運営推進会議や年2回の家族会の他に、家族もケアパートナーと捉え、カンファレンスに参加している。プランを作成するプロセスを見てもらうことにより家族もケアに近づいた。会議での要望も運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体カンファ、またはユニットカンファにて(基本的に全職員参加)全員で話し合いたいことを提案してもらい、討議する時間を設けている。	職員とは全体会議や目標設定シートで前期、後期の目標を面談する。中庭の竹伐採、運動会に入居者も選手として参加等の意見を運営に反映させている。職員は50名位参加予定のクリスマス会の準備に奮闘していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標設定シートで職員が各自目標を定め、管理者との個人面談により、振り返りを行っている。自分たちがやりたいことを比較的自由に各々企画できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	必要な外部研修は出張扱いで参加させる機会を設けている。また、内部研修、勉強会も積極的に参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修などに参加し、情報を共有し、また進捗情報を得、現場に伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて、ご本人の思いや考えを理解し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所でその方と何ができるか、事前に話し合いをもうけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に関しての相談があった時は、今の現状をお聴きし、状況に応じて必要なサービスのアドバイスなど行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は退勤する時は「行って来ます」出勤する時は「ただいま」です。ホームは「家」であり、皆家族であることを共有し、お互いの関わりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、外出、通院など、何かとご家族に声がけし可能な限り本人と一緒に過ごす時間がもてるように声をかけている。また、カンファにもなるべく参加していただき、ケアのパートナーとして関わっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週教会のミサに出掛ける方がおり、入所当初から続けている。また、これまで利用してきたデイケアを入所後も継続し、馴染みの関係が継続できるよう心掛けている。	隣接のデイサービスを利用していた人達が、引き続き通っている。近所の床屋や、親戚の協力もあり故郷である盛岡に帰省しお墓参りや外泊をしたり、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別で話を聴く時間をとり相談に応じ、また、レクや家事を通して皆で過ごす時間をつくるなど、皆居心地良く過ごせるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族と連絡を今でも取り合い、かかわりを続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を聞き取り、記録するためのノートを準備し、ユニットで把握し、実行に移せるよう努めている。	希望聞き取りノートに会話の中での入居者の思いを書きとめて、実現した時の達成感を共有している。「百歳の誕生日を盛大に祝ってもらいたい」「孫にプレゼントを買い、一緒にお寿司を食べたい」「いかを食べたい」等がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドのは把握に努め、延長上に今の暮らしがあるということを念頭におき関わっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が言ったこと、したことを個人記録に記入し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットカンファを行い、6ヶ月ごとに介護計画を作成、3ヶ月ごとに評価し見直している。また、主治医の意見はもとより、家族、本人に関わる人たちの意見も反映できている。	8月からカンファレンスに家族の参加を呼びかけ、参加しやすい時間に配慮し、現在半数の方の協力がある。意見やアイデアを反映した介護計画書を作成している。プランの見直し、モニタリング毎の参加も思案中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言ったこと、行動をそのまま記入することでわかりやすく、ご本人の意思や希望などがプランに反映しやすくなっている。また、情報共有シートを活用し、スタッフ間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の宿泊、ご家族との外食、外泊など本人や家族の希望にそって臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて町内会長、理容室の方、包括支援センターなど意見交換を行い、協力体制を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望もかかりつけ医になるよう、極力努めている。通院はなるべくご家族にも同行していただき、診察の内容を知っていただく。	入居者の主治医は往診クリニックである。内科以外の通院はホームで対応している。定期的な通院が必要な病状の方は家族または事業所で対応している。受診内容や助言は「情報共有シート」に記載している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、前日の日勤帯および夜間帯の報告を行うことで、早期の対応が必要な方の状況を把握することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が足を運び、本人が入院の不安が解消できるよう配慮している。また、早期に本人の状況、入院の期間、治療内容を医師から説明をいただき、退院後の生活をイメージして受け入れの体制を考慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時点でご家族と話し合いの時間を設け、今後どうされたいか意志を確認、希望になるべく添えるよう方針をたてている。重度化した場合における指針にて入所時に説明し、同意を得ている。	尊厳あるターミナルケアを目指して、重度化の対応方針を成文化し家族の意思確認の同意書もある。家族の希望に添えるようこれまでも数例の看取りの事例がある。メモリアルコーナーには物故者4名の写真が飾られ、ホームでの生活ぶりが偲ばれた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会を通じて行っている。また、夜勤者は急変時の対応マニュアルを持参しながら当日、勤務する際のポイントを確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は3ヶ月に一度行い、実際に職員一人一人が避難誘導ができるように行っている。町内の方にも実際に防災訓練に参加していただいている。	3ヶ月毎(夜間想定)の避難訓練に必ず地域住民との連携が得られていることは心強い。職員の感想にも、「心強かった。これはとても重要な事だと感じた」とある。スプリンクラーを設置し、備蓄も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なるべく本人の意思で決められるよう声がけをしている。	人格を尊重した呼びかけをし、萎縮する様なケアはしていない。フェイシャルやアロマセラピーの講習会を受けた職員が中心になって、それらを日々のケアの一つとして活用することで入居者に喜ばれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なにをするにも本人に意思を確認して、なるべく本人の希望に沿って対応するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの希望にそってまずは予定をたて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの着衣、小物などの整理整頓を可能な限りご本人と一緒にするよう心がけ、不足しているものは一緒に買いに出掛けることもある。また、時々お化粧品やネイルを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなどその方ができる部分で関わっていただくよう配慮している。	外出も兼ねて、週4回入居者と一緒に食材購入に行く。職員と一緒に準備をし、胃瘻の入居者も同席しての食事風景は特別な事とせず、さりげない支援をしながら職員も同じ物を食していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事の摂取量、水分量を把握している。個別で主治医から高カロリー補食品を出してもらおう方もいるが、なるべく嗜好品が食べられるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、できる方は声かけ見守りをし、できない方に関しては介助にてケアを行い、習慣としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用は最小限に留め、トイレでの排泄を促している。また、個々に合わせた対応をしている。	排泄の介助が必要な方も数名いるが、排泄の自立ができるように支援している。夜間帯の排泄についても落ち着いている現状で、昼夜逆転の問題もなく安眠できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、プルーン牛乳や冷水を試してみたり、腹部マッサージを実施することで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく皆さんの生活習慣を大事にし、好みに応じ入浴時間を昼でも夜でも可能にしている。	家庭用の浴槽があり、もう一方のユニットには大きい浴槽で、リフト入浴設備も整っている。本人に希望を聞いたら、夜間入浴希望者が5名おり、個々に合わせた支援をしていることを評価したい。拒否する方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に足浴を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明書を個人ごとにファイリングし、常に確認できるようにしている。服薬時はご本人に手渡しし、最後まで服薬を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話の中から、その方にあった役割を考え、実行できるようにと努めている。また、「ありがとうございます」の感謝の気持ちを伝えることを大事にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、買い物など、希望に合わせて外出をしている。また、ご家族も一緒に故郷にドライブに出かけるなど行っている。また、日々の買い物では地域の方にも温かく見守っていただけていると思う。	日常の散歩や外出を兼ねて、入居者と職員合わせて4～5名ずつ週4回、食材購入等に出掛ける。年間予定を立てて花見や水族館、日帰り温泉等を楽しんでいる。本人の希望を叶えるべく親戚と協力して、遠方の故郷にも帰省ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一度に使いきってしまうないように、週1回ずつ分けてお渡ししている方もいる。また、不安にならないように所持金をお聞きし、足りない時は、お渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中お見舞い、年賀状は毎年送ることができるよう支援を行なっている。また、随時電話や手紙を出せるよう支援し、ご家族にも手紙を書いていただけるよう声掛けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾を行なっている。心地よく過ごせるようにアロマディフューザーを使用している。	エアコンを併用し全館床暖で、加湿器もあり適温適湿で心地よい。ずんだユニットは掘りごたつだった所をリフォームして、入居者の現状に合わせて長テーブルと椅子仕様に変えた。しかし、段差が解消されていないのでやや不安を感じる。	リビングで、段差を乗り越えての車椅子使用は生活上不便がある。大きい浴槽には足場(踏み台)を置いて使用しているが、さらに今後の改善の努力が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室、縁側、ソファのコーナー、各居室など、その時によって過ごせるスペースが確保できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、必要な備品に関してはできるだけ自宅で使用していたものを持参していただくようお願いし、カーペットやカーテンなどもご本人が落ち着ける好みのものを用意していただいている。また、安全に生活できるようにその都度、模様替えをおこなっている。	家族の協力で、馴染みの重厚な家具が設えられている、仏壇が置かれている、自作のひまわりの絵や家族写真、職員からの感謝状が飾ってある、吸引器がある等、それぞれが自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所、トイレの場所などがわからなくなる方にはわかりやすく目印をつけるなど配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475500476		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームいずみの杜	ユニット名	ずんだ
所在地	宮城県仙台市泉区松森字下町7-2		
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご家族と一緒に過ごす時間を大切にさせていただきたい思いから、行事などの案内はできるだけこまめに行い、参加を声掛けしている。また、全体で行う行事だけでなく、個別での外出にも利用者さんの希望をふまえて、ご家族も一緒に参加できるよう配慮している。ケアカンファレンスへの参加へのよびかけしている。  
 ・法人内で、アロマの講習、フェイシャルの講習を2名の職員が受講し、全体でケアに活かすことができるよう取り組んでいる。  
 ・地域の行事や推進会議などを通じて、町内会や近隣の方々との交流の場を持ち、親睦をはかることができるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する同法人の「いずみの杜診療所」と老人保健施設、デイサービスの他に仙台市を中心に、県内に多数の介護支援事業所等を開設している。グループホームの入居者にとって、馴染みの人、馴染みの物が安心感をもたらすことから、職員の異動は最小限であるよう願っている。入居者一人ひとりの想いに耳を傾け、可能な限り本人の希望に沿うようなケアを実践していることは家族アンケートからも窺える。家族との関係性を持続する工夫も随所に見られ、今年度から家族にもカンファレンスの参加も呼び掛けている。意見を引き出しサービスの向上に活かしている事で信頼と安心感にも繋がっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年12月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームいずみの杜 )「ユニット名 ずんだ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をベースにユニット目標を毎年度立てている。また、目標に関しての振り返りを職員全員で行う時間を作っている。	「関わりを大切にした自立と共生の支援」を基に、ユニット毎の介護理念を職員で共有している。入居者に胃瘻の方がいるが、皆と一緒に食卓を囲んでいる。本人が今できる事の関わりを大切に支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、特に夏祭りや運動会は地域の一員として職員、利用者さんが積極的に参加している。	地域の一員として夏祭りに実行委員を引き受けホームでも出店し盆踊りを一緒に楽しんだり、運動会は見物だけでなく入居者も選手として生き生きと参加している。ホームの避難訓練に参加する等、関わりが深くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、「認知症」について勉強する時間を設けている。また、キャラバンメイトの講座を受けたことで、今後必要に応じて活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ごとに直近2ヶ月のホームの取り組み、行事などの様子を伝え、取り組みに対するアドバイスをいただいている。	法人が地域包括支援センターを受託しており、毎回出席している。介護教室や地域のサロン等の情報提供がある。年6回利用者、家族、地域等の参加もあり意見をサービスの向上に活かし双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの運営推進会議に参加して頂き、取り組みについて伝え、協力を得ている。	スプリンクラー取り付けに係る制度や自立支援医療手続き等の相談をしている。地域密着型といっても広域過ぎるので、近隣の馴染になった人の入居が叶わない場合、地域密着型の意義に疑問を感じる時があるという。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で勉強会を通じて、行なっている。	日中は施錠せず防犯の工夫もしている。家族からベッド柵取り付けの要請があったが、マットレスを敷く工夫で対応している。「GPSにより位置を確認できる装置」を持ち自由に外出している人もいる。身体拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を通じて、行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を通じて、行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度改正時は説明を十分にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し意見を出し合う場をとっている。	運営推進会議や年2回の家族会の他に、家族もケアパートナーと捉え、カンファレンスに参加している。プランを作成するプロセスを見もらうことにより家族もケアに近づいた。会議での要望も運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体カンファ、またはユニットカンファにて(基本的に全職員参加)全員で話し合いたいことを提案してもらい、討議する時間を設けている。	職員とは全体会議や目標設定シートで前期、後期の目標を面談する。中庭の竹伐採、運動会に入居者も選手として参加等の意見を運営に反映させている。職員は50名位参加予定のクリスマス会の準備に奮闘していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標設定シートで職員が各自目標を定め、管理者との個人面談により、振り返りを行っている。自分たちがやりたいことを比較的自由に各々企画できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な外部研修は出張扱いで参加させる機会を設けている。また、内部研修、勉強会も積極的に参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修などに参加し、情報を共有し、また進捗情報を得、現場に伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて、ご本人の思いや考えを理解し、信頼関係作りに努めている。本人の考えは一番に考え、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所でその方と何が出来るか、事前に話し合いをもうけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に関しての相談があった時は、今の現状をお聴きし、状況に応じて必要なサービスのアドバイスなど行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は退勤する時は「行って来ます」出勤する時は「ただいま」です。ホームは「家」であり、皆家族であることを共有し、お互いの関わりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、外出、通院など、何かとご家族に声がけし可能な限り本人と一緒に過ごす時間がもてるように声がけしている。また、カンファにもなるべく参加していただき、ケアのパートナーとして関わっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用してきたデイケアを入所後も継続し、馴染みの関係が継続できるよう心掛けている。	隣接のデイサービスを利用していた人達が、引き続き通っている。近所の床屋や、親戚の協力もあり故郷である盛岡に帰省しお墓参りや外泊をしたり、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別で話を聴く時間をとり相談に応じ、また、レクや家事を通して皆で過ごす時間をつくるなど、皆居心地良く過ごせるよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族と連絡を今でも取り合い、かかわりを続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を聞き取り、記録するためのノートを準備し、ユニットで把握し、実行に移せるよう努めている。	希望聞き取りノートに会話の中での入居者の思いを書きとめて、実現した時の達成感を共有している。「百歳の誕生日を盛大に祝ってもらいたい」「孫にプレゼントを買い、一緒にお寿司を食べたい」「いかを食べたい」等がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドのは把握に努め、延長上に今の暮らしがあるということを念頭におき関わっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が言ったこと、したことを個人記録に記入し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットカンファを行い、6ヶ月ごとに介護計画を作成、3ヶ月ごとに評価し見直している。また、主治医の意見はもとより、家族、本人に関わる人たちの意見も反映できている。	8月からカンファレンスに家族の参加を呼びかけ、参加しやすい時間に配慮し、現在半数の方の協力がある。意見やアイデアを反映した介護計画書を作成している。プランの見直し、モニタリング毎の参加も思案中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言ったこと、行動をそのまま記入することでわかりやすく、ご本人の意思や希望などがプランに反映しやすくなっている。また、情報共有シートを活用し、スタッフ間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の宿泊、ご家族との外食、外泊など本人や家族の希望にそって臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて町内会長、理容室の方、包括支援センターなど意見交換を行い、協力体制を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望もかかりつけ医になるよう、極力努めている。	入居者の主治医は往診クリニックである。内科以外の通院はホームで対応している。定期的な通院が必要な病状の方は家族または事業所で対応している。受診内容や助言は「情報共有シート」に記載している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、前日の日勤帯および夜間帯の報告を行うことで、早期の対応が必要な方の状況を把握することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が足を運び、本人が入院の不安が解消できるよう配慮している。また、早期に本人の状況、入院の期間、治療内容を医師から説明をいただき、退院後の生活をイメージして受け入れの体制を考慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時点でご家族と話し合いの時間を設け、今後どうされたいか意志を確認、希望になるべく添えるよう方針をたてている。重度化した場合における指針にて入所時に説明し、同意を得ている。	尊厳あるターミナルケアを目指して、重度化の対応方針を成文化し家族の意思確認の同意書もある。家族の希望に添えるようこれまでも数例の看取りの事例がある。メモリアルコーナーには物故者4名の写真が飾られ、ホームでの生活ぶりが偲ばれた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会を通じて行っている。また、夜勤者は急変時の対応マニュアルを持参しながら当日、勤務する際のポイントを確認している。実際に対応ができるよう繰り返し、学ぶことが必要でもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は3ヶ月に一度行い、実際に職員一人一人が避難誘導ができるように行っている。町内の方にも実際に防災訓練に参加していただいている。	3ヶ月毎(夜間想定)の避難訓練に必ず地域住民との連携が得られていることは心強い。職員の感想にも、「心強かった。これはとても重要な事だと感じた」とある。スプリンクラーを設置し、備蓄も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なるべく本人の意思で決められるよう声かけをしている。声かけする際、相手の立場に立ってするよう心かけている。	人格を尊重した呼びかけをし、萎縮する様なケアはしていない。フェイシャルやアロマセラピーの講習会を受けた職員が中心になって、それらを日々のケアの一つとして活用することで入居者に喜ばれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なにをするにも本人に意思を確認して、なるべく本人の希望に沿って対応するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの希望にそってまずは予定をたて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの着衣、小物などの整理整頓を可能な限りご本人と一緒にするよう心がけ、不足しているものは一緒に買いに出掛けることもある。また、時々お化粧品やネイルを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなどその方ができる部分で関わっていただくよう配慮している。	外出も兼ねて、週4回入居者と一緒に食材購入に行く。職員と一緒に準備をし、胃瘻の入居者も同席しての食事風景は特別な事とせず、さりげない支援をしながら職員も同じ物を食していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事の摂取量、水分量を把握している。個別で主治医から高カロリー補食品を出してもらおう方もいるが、なるべく嗜好品が食べられるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、できる方は声かけ見守りをし、できない方に関しては介助にてケアを行い、習慣としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用は最小限に留め、トイレでの排泄を促している。また、個々に合わせた対応をしている。	排泄の介助が必要な方も数名いるが、排泄の自立ができるように支援している。夜間帯の排泄についても落ち着いている現状で、昼夜逆転の問題もなく安眠できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、牛乳や野菜ジュース、ヨーグルトを試してみたり、腹部マッサージを実施することで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく皆さんの生活習慣を大事にし、好みに応じ入浴時間を昼でも夜でも可能にしている。	家庭用の浴槽があり、もう一方のユニットには大きい浴槽で、リフト入浴設備も整っている。本人に希望を聞いたら、夜間入浴希望者が5名おり、個々に合わせた支援をしていることを評価したい。拒否する方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく家事などを含め、活動することで安眠につながるよう支援している。また、就寝時間をご本人に決めていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明書を個人ごとにファイリングし、常に確認できるようにしている。服薬時はご本人に手渡しし、最後まで服薬を確認している。また薬が変更になった場合はすぐに伝達し、誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話の中から、その方にあつた役割を考え、実行できるようにと努めている。また、「ありがとうございます」の感謝の気持ちを伝えることを大事にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、買い物など、希望に合わせて外出をしている。また、ご家族も一緒に故郷にドライブに出かけるなど行なっている。また、日々の買い物では地域の方にも温かく見守っていただけていると思う。	日常の散歩や外出を兼ねて、入居者と職員合わせて4~5名ずつ週4回、食材購入等に出掛ける。年間予定を立てて花見や水族館、日帰り温泉等を楽しんでいる。本人の希望を叶えるべく親戚と協力して、遠方の故郷にも帰省ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一度に使いきってしまうないように、週1回ずつ分けてお渡ししている方もいる。また、ご本人が困らないように所持金をお聞きし、足りない時は、お渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は毎年送ることができるように支援を行なっている。また、随時電話や手紙を出せるよう支援し、ご家族にも手紙を書き添えていただけるよう声掛けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾については、季節感のあるものを意識して行なっている。	エアコンを併用し全館床暖で、加湿器もあり適温適湿で心地よい。ずんだユニットは掘りごたつだった所をリフォームして、入居者の現状に合わせて長テーブルと椅子仕様に変えた。しかし、段差が解消されていないのでやや不安を感じる。	リビングで、段差を乗り越えての車椅子使用は生活上不便がある。大きい浴槽には足場(踏み台)を置いて使用しているが、さらに今後の改善の努力が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士が関わるができるよう、席の配置を考えたり、入浴時間を一緒にするなど対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、必要な備品に関してはできるだけ自宅で使用していたものを持参していただくようお話し、カーペットやカーテンなどもご本人が落ち着ける好みのものを用意していただいている。また、安全に生活できるようにその都度、模様替えをおこなっている。	家族の協力で、馴染みの重厚な家具が設えられている、仏壇が置かれている、自作のひまわりの絵や家族写真、職員からの感謝状が飾ってある、吸引器がある等、それぞれが自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所、トイレの場所などがわからなくなる方にはわかりやすく目印をつけるなど配慮している。		